

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672700297		
法人名	医療法人社団 正峰会		
事業所名	モンファミーユ舞鶴(東棟)		
所在地	京都府舞鶴市大字和田小字中田1065		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2672700297&SCD=370
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活で、歳をとっていても認知症であっても、介護者が、側にいることで出来る事は、していただいています。
精神面では、バリレーションケアを意識して全員で、取り組んでいる。
リハビリを兼ねたレクリエーションを毎日おこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海に見える高台に立つホームは四季の変化を五感で感じられる恵まれた環境の中、利用者の気持を実感し、その人が過去培ってきた生活ペースに合わせて本人本位に過ごしてもらう個別支援と、出来ることはしてもらうという自立支援に励んでいます。中庭に面したベンチは利用者同士の語らいの場にもなっていて、そっと職員が耳を傾けて気持を把握するというような、ゆとりある介護が行われています。職員の声や利用者とのコミュニケーションが日々の介護に活かされる仕組みも構築されており、ユニット会議や法人内交換研修でこれまでの自分達のケアを振り返り、気づきを得たり評価、検討する機会を得ています。施設長が職員の自主的な学びを全面的に支援しており、希望する内外の研修にも仕事として参加できるなど、スキルアップに向けた教育体制が構築しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を定め、スタッフルーム・玄関に掲示するなどして実践している。	一人ひとりが地域で安心して暮らせるための支援と、体調や気分に配慮した利用者本位のケアを基本に理念を作り上げている。理念は常時社員証と共に携帯し、いつでも振り返りができるようにしている。また広報誌にも毎回理念を掲載し、外部にもホームの理念を理解してもらうよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家と離れているため、日常的な付き合いはないが、夏祭りなど行事の際には地元婦人会や、近くの中学生の参加も願っている。	自治会に加入し、ホームの季刊誌を地域に配布し、シルバー110番の役割も担っている。地域の祭りの際には神輿がホームに寄ってきている。またアニマルセラピーやフットマッサージなど地域のボランティアを受け入れている。体験学習を受け入れたり、運動会への招待を受けるなど子供達との交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は出来ていないが、GH独自の広報紙を近隣自治会に回覧願っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、運営状況、外部評価・満足度アンケートの結果等報告しているが、改善に向けた意見も頂きにくいのか、初期の目的達成には至っていない。	運営推進会議は、家族・介護相談員・福祉課で包括担当の市職員・婦人会代表等が参加して2ヶ月に1回開催している。ホームからの報告の他、昼食を食してもらったり、参加者と共に法人の他施設への見学なども行い、多くの意見や助言を運営に反映させている。	家族会や夏祭りなど、行事の際に開催し、利用者の普段の様子を見てもらったり、また福祉用具の勉強会などと兼ねて行うなどの工夫をされてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点等の照会や介護サービス計画作成の参考とするため、介護認定審査会の資料提供など願っている。	市担当者とは運営推進会議の参加に加え、今年度はスプリンクラーの設置の件で頻繁に行き来するなど、気軽に相談に乗ってもらえる関係を築いている。また介護相談員を毎月受け入れたり、市の研修に参加するなど積極的に働きかけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の想いを大切に、無理な介助はしない。 見守りを強化し、玄関の鍵は掛けず外部からの防犯も受けいれている。	身体拘束についての研修やユニット会議で理解を深め、ユニット間の移動はもちろん、リビングの掃きだし窓や玄関など開口部は開放し自由に入出できる。利用者が外出したそうにしている時には付き添い、見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識を高めるため研修会には積極的に参加し、全職員に回覧や、会議で周知させている。		

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方にお世話になられている方もあり来訪者には、日頃の様子を話したり月に一度様子を手紙でご報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、運営規程等を交付し、また、それらに定められた事項を説明し理解を願っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を置き、苦情や希望など貴重な意見を伺う。直接伺った苦情は報告書にあげ、職員間で、見当し対応している。	家族の来訪時や電話などでの家族の意見を細かく聞き、報告書に改善対応も含め記入している。また敬老会の際に家族会を開催したり、家族にアンケート調査を行い、集計も行われている。	家族からの気遣いの意見やアンケート調査結果など、運営に反映したことを家族に報告されてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務報告書や棟会議で提案し、業務に活かしている。	「運営上の問題点」や「業務内容」を毎月会議前に全員が書面に意見を記入し、それらの資料を活用してユニット会議で話し合うという、職員の意見を反映する仕組みが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加希望や資格取得に向け自ら向上心を持って努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する研修に沢山参加できるように取り組み業務日程を考慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会では、年に数回それぞれのホームの持ち回りで連絡会があり、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の要望や日頃の生活を、お聞きしたうえで一ヶ月間集中して様子を見せていただき訴えや行動を把握し本人の望まれる援助をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面談し、要望や日頃の様子今までの生活等聞かせていただき何でも話手いただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの為他のサービスは利用出来ないが、要望があればご相談することとした。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が援助を受けながら生活する事を重点に置き、出来ること(身の回り・料理・掃除)を職員と共にやっていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	度々来られるご家族様には、その都度近況報告をし遠方で来られないご家族様には毎月の手紙や写真でGHでの暮らしを報告している。必要のある時は電話で連絡をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に行っておられる方もあったが、本人が、外出する事を嫌がられるようになった。 要望があれば支援する。	毎週友人がホームを訪問してくれている。家族と以前の住まいを見に行き近所の家で談笑したり墓参りに出かけるなど、家族との関係継続を支援している。また誕生日に馴染みの店に外食に出かけたなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集まりや食事等のお誘いをさせていただいたり、できない方の下膳をさせていただいたりしている。 ちょっとした言動で関係が悪くならないように、助言をしている。		

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中で、会話の出来る時間を多くとり想いや希望を聞くようにしている。	日常生活の中での会話の時間を多くとるよう心がけ、会話の中から利用者の思いや希望を把握している。表現困難な利用者は動きや家族からの聞き取り、また利用者同士の会話を通して把握に努めている。現在アセスメント方式の変更をを検討中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や日常会話の中で、昔の事を話題にして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや情報を職員間で共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、担当者を含めスタッフで話し合い介護計画の見直し評価をして、その都度ご家族様に説明している。	家族や本人の意見を反映したモニタリングシートを元にケースカンファレンスを毎月行い現状に即した現実的な計画作成に繋げている。必要に応じて受診時に主治医に相談し、プランに反映させている。ケアプランは毎月モニタリングされ、6ヶ月毎に見直しされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテや入居者情報ファイルに記入し情報を共有して対応を統一するようにしている。変化があればその都度見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば相談や支援していきたい。		

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校、中学校、高校、婦人会ボランティアなどの訪問を受け、交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて相談、必要なら他の医療機関を受診している。	毎週法人施設へ内科医が訪問しており、その際必要に応じて受診している。協力歯科医への通院や往診、精神科医など専門医には家族や職員が連携を図り通院している。緊急時には協力医の往診も可能で、24時間対応で法人の看護師とも連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じてアザレアの看護師に相談、必要ならかかりつけ医に受診する、状況に応じて他の医療機関を受診する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、連絡を密にし、面接に行ったときには、情報を交換する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまで行う方針で、必要に応じてかかりつけ医からご家族へ説明をしてもらい、ご家族様と話し合い想いを共有し、取り組む。	毎年度初めに家族の意向を確認して書面を交わしている。家族と医師のカンファレンスを踏まえ、利用者にとって負担の無い最善の方法を家族・医師・看護師との話し合いを重ねて、法人看護師の24時間対応のもと、チームで看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防訓練を行い実践力を身につけている。 緊急時の対応マニュアルを作り会議で周知し、目に入りやすい所に張り出してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時に地域の消防団にも参加していただき協力をお願いしている。	毎年法人と合同で消防訓練を行っている。今年は運営推進会議参加者からの紹介で地域の消防団も参加して夜間を想定し避難訓練を行い、避難時間も計測している。その他通報訓練も行い、運営推進会議でも報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいやプライバシーには、注意して支援にあたるようにしている。 個人記録は、鍵付き書庫で保管している。	法人の接遇委員会に参加し意識向上を図り、また職員間でも注意し合えるように努めている。本人だけではなく、家族などそれぞれの立場に立って親しみと馴れ合いの違いの理解を深めている。トイレ・入浴などに関しても誇りやプライバシーに配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定が難しい状況にあるが、日常会話の中で、希望を聞いて自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添って支援出来る様に努力しているが、外出となると思うように支援できていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等をご家族に用意していただいている。理美容は隣接のアザレアに來られる理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で、好みをお聞きしたり食事の準備や配膳片付けも役割を持って手伝ってもらっている。	昼夜は法人から食事が運ばれているが、朝食は給食委員が献立を立て、下ごしらえや下膳、洗い物など、一緒に行っている。行事の際にはホームでの食事作りにこだわり、ハヤシライスやカレー、おやつバイキングなど利用者と一緒に調理し共に食事し、楽しみを兼ねた自立支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量の記録、体重増加に気を配り個人の状態をみて栄養士さんとも相談し、提供している。 夜間の水分摂取にも気を配りペットボトルを持ってもらい声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行い就寝前に、入れ歯洗浄液に浸している。		

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿漏れはあるものの全員トイレで排泄されている。臭いや朝夕の清拭、入浴時の下着汚染等確認のうえ申し送りで、気を配っている。	早めの対応で自然な排泄となるよう支援している。失敗時にはすばやい申し送りで見守り配慮で、次の失敗がないように工夫している。状態の変化に対しても会議で話し合い検討し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食のヨーグルトや、水分摂取の声掛け、毎日体操で、腸の働きを促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全て希望に添えることは難しいが、毎日入っている人もあれば夕食後に入っているひともある。	毎日、朝から夜までいつでも入浴可能で、機械浴もある。湯温も自分で調整できシャンプーやリンスも好みのもので自由な入浴ができる。自立入浴希望者にはそっと職員が見守り、入浴を楽しんでもらっている。入浴しない日は清拭を行い清潔の保持にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、照明、布団など個人の希望を尊重して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、飲み忘れがないよう個別にファイルし保管している。又新しい薬が処方されたときや変わったときがあれば、個人用申し送りや、与薬箱に書き職員全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、料理、荒い物等役割を持って日々過ごされている。楽しみや、気分転換、リハビリを兼ねてレクリエーションの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に何回かは、外出計画を立て出かけているが、一人ひとりその日の希望にはそえていない。家族や地域の協力もない。	気候が良ければ日常的に法人周りの散歩や玄関外でのレクリエーション、ウッドデッキでの外気浴を行っている。誕生日に行きたい所への外出や外食、家族対応で元住んでいた家を見に行き近所と話をするなど、個別の外出支援に取り組んでいる。また行事として花見や紅葉など四季の自然を楽しむ外出も行っている。	

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々出張販売のパンを自分のお小遣いで、買っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々チェックし快適に過ごしていただけるよう管理している。 中庭やデッキには、季節の花が、育てられている	明るいリビングに対面式オープンキッチンが広々とした開放感にあふれ、掃きだし窓はフラワーポットのあるデッキから前庭に続き海が見える景色が広がっている。壁際のソファではごろんと横になり、心地良く居眠りすることもある。ユニットの廊下は寒い日は室内散歩にも利用され中庭に向かって置かれたベンチは入居者同士の井戸端会議の絶好の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下のベンチで気の合った入居者同士お話をされている。 独りになりたければなれるところもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本なにを持ち込まれても良いとお伝えしている。ソファベット、仏壇、テレビ、椅子等持ち込んでおられる方もある	備え付けの筆筒やベッドがあるが、畳を敷いて友人と炬燵で麻雀を楽しむ前例もあり、自由にアレンジできる。仏壇やTV、机、椅子、冷蔵庫などを持参され、家族の宿泊も兼ねてソファベットや体調に応じてポータブルトイレを用意するなど、利用者のこだわりや状態に配慮した居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方、視力の衰えた方も施設内を自由に移動できるように廊下にも手摺りを設置し安全確保に努めている。		